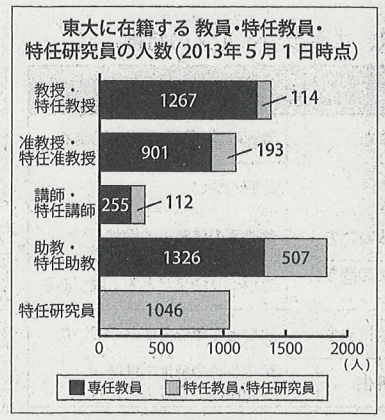
先行きの不安感じるも

今のうちに業績挙げる

季節は「学問の秋」本番。実は、博士論文の提出時期の一つでもある。ところで、普段から何げなく目にしている東大教員・研究員の肩書を気にしたことはあるだろうか。博士課程を出た研究者が安定した研究職を得にくいという「ポスドク問題」は、研究プロジェクトごとに採用される「特任」教員・研究員とも関わりが深い。特に若手研究者は、常に生き残りを賭けた競争を強いられている。若手研究者の育成と有効活用が叫ばれる今、日本の研究と教育を支える新進気鋭の面々に迫ってみよう。

（取材・佐方奏夜子）



吉田　幸恵（よしだ　さちえ）特任研究員

（医科学研究所）

09年北九州市立大学大学院修士課程修了。修士（人間関係学）。立命館大学大学院博士課程在籍。12年より現職。

●特任だからこそ磨ける

医科学研究所ヒトゲノム解析センター公共政策研究分野の吉田幸恵特任研究員は、民間企業に就職した後、再度勉強したいとの思いから28歳で大学に入り直した。差別問題を研究テーマとし、学部時代からハンセン病者の生活史調査に取り組んできた。博士課程では、フィールドを朝鮮半島に広げ、日韓のハンセン病問題を調査するため両国を往復する生活を送った。

そんな中、転機が訪れる。現在所属する医科学研究所の武藤香織教授から、国からの委託事業『臨床試験・治験の語り』データベース構築プロジェクト」に誘われた。社会学の見地からフィールドワークに携わってきた経験が評価され、二元の大学の博士課程に在籍しながら東大の特任研究員に就任した。

現在は、新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻でのオムニバス形式の講義「研究倫理／医療倫理Ⅰ・Ⅱ」にも参加している。この講義には、同じ研究室の特任教員・特任研究員たちがほぼ全員携わり、講義を行っている。また、研究室に所属する大学院生の指導者として大学院生の論文をチェックし、時には共著者となるなど、学生への教育にも深く関わっている。

「特任だからこそ、ポストにあぐらをかいて腐ってしまうことなく、自分の武器を磨き続けられます」と吉田特任研究員。この場所にいられる間に業績を挙げて次のチャンスをつかもうという高い意識を持ち、研究に専念できるという利点がある。正規の職員と比較して、研究費の得やすさや待遇にも差はない。しかし、大学の運営・自治には関わりにくく、さらに5年間という任期があるため、先行きへの不安も付きまとうという。

「研究職で食べていくのは難しいので、本当に好きじゃない限り、普通に就職した方がいいでしょうね（笑）」と屈託なく笑う吉田特任研究員。それでも「研究者としての感性やスキルが身に付く今の環境には、本当に感謝しています」と語った。

◇

●ポスト間の流動性を高めたい

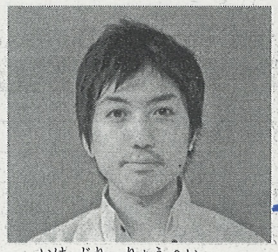
公共政策研究分野の責任者である武藤教授は、質的研究の経験と生命倫理分野への興味を併せ持つ人材を探す中で、吉田特任研究員と出会った。武藤教授が研究員たちに求める要素は「自由を大切に」だという。国からの委託事業に携わる特任教員・特任研究員にはプロジェクトへの専任義務があるが、「天職の発見やキャリアアップにつながる研究をする自由を捨てないでほしい」と願い、その他の研究の自由を認めている。武藤教授は「教職員の終身雇用資格であるテニュアを得れば、それでゴールだという考え方は古い」と続ける。東大という組織の維持や発展のために尽くす定員が減らされる中、そこに費やす時間が増えるほど研究の優先順位は下がるからだ。逆に、特任の職にある者は研究に専念できるが、大学の運営や学生の教育に携わる機会が少ない。「テニュアと特任の職務は極端に分かれているが、これは現実と合っていない。両者の融合性・流動性を高め、ポスト間の風通しを良くしたい。今はその過渡期にあると」と武藤教授は話す。

武藤　香織（むとう　かおり）教授

（医科学研究所）

98年医学系研究科博士課程単位取得退学。博士（保健学）。医科学研究所准教授などを経て、13年より現職。

領域突き進む覚悟必要



池尻　良平（いけじり　りょうへい）特任助教

（情報学環）

13年学際情報学府博士課程単位取得退学。博士（学際情報学）。同年より現職。

●次のキャリアは未定

情報学環の池尻良平特任助教は、2004年に文Ⅲに入学し、文学部歴史文化学科西洋史学専修課程へ進学した。卒業論文では、産業革命前後での教育形態の変遷を扱った。一見畑違いに思える学際情報学府を進学先に選んだのは「歴史を現代に応用できる」教育システムを作りたいと強く感じたからだという。

修士1年の冬までは、歴史学習に関する先行研究の調査に力を注ぐとともに、転移の領域を扱う認知心理学の世界にも触れた。2年目には高校生向けの歴史教材を作成しては現場で試用し、そのデータを分析した論文を執筆。研究の面白さに目覚めたのはこの時期だった。ここでやめるのはもったいない、もっと自分の能力を伸ばしたい。その思いから博士課程への進学を決めた。

博士課程時代には、東日本大震災で実験が流れたり、学術誌に投稿した論文が審査を通らなかったりと思い通りにいかないことが続く。「つらい時期でしたが、同時にこの時に何気なく触れた系統学や分類学の本がその後の糧になりましたね」と池尻特任助教。

博士3年で単位取得退学後、すぐに科学研究費助成事業のプロジェクト「学習者の状況および知識構造に対応したシナリオ型防災教育教材の開発」に採用され、約1年後に博士号を取得した。現在は、元々の研究テーマである自身の科研「歴史を現代社会の問題解決方略に転移させる学習メディアの開発と評価」をはじめ、複数のプロジェクトや他大学での授業を抱えている。

「非常勤の特任の魅力は、時間の融通が利く点ですね」と語る池尻特任助教は、空き時間を用いて外部での研究会やNPO法人の運営にも携わる。「常勤の先生には難しいと思います」。ただ、やはり不安定な部分も。「雇用されている防災科研が本年度で終わるので、収入がかなり下がるかもしれませんね（笑）」

正直、次のキャリアプランについては深く考えていないという。「職を得るための研究ではおかしい。研究は目的で、手段ではないのです」。キャリアとは「どこに所属するか」ではなく、「自分のやりたい研究分野で功績を残し続けること」だと考えている。ツイッターやブログで自分の研究内容や関心事項を発信し、それを企業や研究機関に気に入ってもらうところから仕事が生まれるという。

研究者という生き方には危うさが伴う。自身も、キャリアの最適解とは何か悩んだ時期があった。学究の道を志す学生には、「本当に面白いと思える研究テーマを貫くこと、そしてその領域を突き進む覚悟を持つこと」が必要だと助言する。

◇

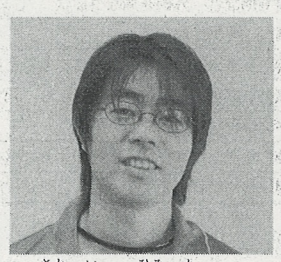
●好きなことができて満足

工学系研究科都市工学専攻の酒井宏治特任助教は、修士・博士課程を通し、富栄養化で水面を覆うほどに微細藻類が大発生した状態であるアオコを紫外線の照射でダムから取り除く研究に取り組んだ。論文提出の2、3カ月前まで実験に没頭し、一気に論文を書き上げるやり方だったという。

「研究が楽しくて、自然な流れで研究者になった感じですね」と酒井特任助教。

「特任だろうと専任だろうと助教は下っ端なので、雑用が多い点ではあまり違わないかも（笑）」と酒井特任助教は話す。やはり不安なのは「任期です。UEHASは5年間なので、次はどうしようかなと」。最近、自分の専門分野の常勤ポストが少ないと感じる。「自分のやりたいことが世の中に求められているか。そこは大切ですね」

以前は、工学系で博士課程を出たら研究者になるのが一般的だった。しかし今では、メーカーを中心に博士の採用も増えている。進路に迷った学生には「自分が本当にやりたいことを見極めて進んでいけばいい」と激励する。自身のキャリアプランについては「野望なんてありません。今は好きなことをやれているので、満足しています」と晴れやかな表情で語った。



酒井　宏治（さかい　ひろし）特任助教

（工学系研究科）

08年工学系研究科博士課程修了。博士（工学）。日本学術振興会特別研究員などを経て、13年より現職。

東大ナビ
utnav.jp
ケータイでお得なイベント情報をGETI
詳しくは utnav.jp にアクセス。
または mail@utnav.jp に空メール！
東京大学　教育企画室

アルバイト募集！
◇ビッグデータ解析、マーケティングリサーチの世界を体験しませんか？
◇ネットマーケティングで、イノベーションを起している急成長企業で、いい仲間とバイトしながら、ワクワク学びませんか？
IT&マーケティングのプロフェッショナル集団で、ビジネスセンスを磨くことができます。
※東京大学卒社員、東京大学生バイトも在籍して頂いております。
☑ 勤務地：溜池山王駅徒歩5分
（溜池山王〜駒場東大前駅20分、本郷三丁目23分）
☑ 曜日・時間：月〜金、10時〜21時の中で応相談（交通費支給）
☑ 時給：最初3か月1,100円、
以降スキルUPに応じて昇給。最大1,800円
◆VALUESのデータで、あらゆるサイトのユーザ行動を分析できます
詳しくはこちらへアクセス
http://www.valuesccg.com/
「【eMark+】Free(トライアル版)へ」をクリック　学生さんも無料でお使い頂けます
<お問い合わせ>
マーケティングとIT先端技術を活用して、新たな市場価値の創造をサポート
〒107-0052東京都港区赤坂2-19-4 FORUM赤坂 5F
(株)ヴァリューズ　Tel：03-6277-6812　Mail：saiyo@valuesccg.com
VALUES Consulting&Creation Group